

文化財アクションプラン

第1章 基本的な考え方

「文化財マスタープラン」では、本市の歴史文化の特徴と目指す方向を設定しました。

本市の歴史文化の特徴は「海との深い関わりの中で松浦固有の歴史文化が育まれていること」であり、本計画では松浦固有の歴史文化として6つを設定しています。中でも、松浦党と蒙古襲来に関する歴史文化は、市民多くの誇りであり、日本史や世界史にも通じる歴史文化として重要と考えています。また、松浦固有の歴史文化を今に伝える文化財の保存・活用に向けて、本市の目指す方向には「海とつながる松浦の歴史文化を誇りとするまち」、基本目標には「文化財を磨き、輝かせ、次世代につなぐ好循環を官民協働で生み出す」ことを掲げたところです。

「文化財アクションプラン」では、「文化財マスタープラン」を踏まえ、松浦固有の歴史文化を今に伝える文化財の保存・活用を官民協働で推進する具体的なアクションプランを調査研究、保存（保存修復、継承支援、防災・防犯）、活用（公開発信、学校教育・生涯学習、観光振興、地域まちづくり）に分けて設定します。

なお、本市では、少子高齢化の進行に伴い、有形、無形を問わず、文化財の保存・活用を支える担い手の確保等に対する危機感が高まっています。今後の文化財の保存・活用にあたっては、市民の理解と協力を得て、重点的に保存・活用すべき文化財を絞り込みつつ、総合的な視点でバランスを図りながら文化財の保存・活用に取り組んでいきます。

ここからは、上記を踏まえ、市内に所在する文化財を俯瞰しつつ、松浦党と蒙古襲来に関する歴史文化を重視し、今後10年間で推進する重点的かつ総合的なアクションプラン（課題と方針、措置、推進する体制）を設定し、その推進を図ります。

文化財マスタープラン

-松浦市の歴史文化の特徴-

海との深い関わりの中で 松浦固有の歴史文化が育まれていること

- 海辺や河岸等で火成活動や地殻変動の痕跡を見ることができること
- 古来より豊かな海産物や農産物に恵まれた地であり続けていること
- 海を行き来した武士団「松浦党」の歴史文化が語り継がれていること
- 「蒙古襲来」から日本を守り抜いた歴史が海に残されていること
- 海がある地の利を活かした産業が栄えたこと
- 海と山が身近にあることで風景や暮らしが育まれてきたこと

-目指す方向-

○目指す方向

海とつながる松浦の歴史文化を誇りとするまち

○基本目標

文化財を磨き、輝かせ、次世代につなぐ
好循環を官民協働で生み出す

文化財アクションプラン

調査研究

1.調査研究

2.保存修復

3.継承支援

4.防災・防犯

5.公開発信

6.学校教育・生涯学習

7.観光振興

8.地域まちづくり

保存

活用

文化財
保存・活用

＜第2章＞
課題と方針

＜第3章＞
措置

＜第4章＞
推進する体制

図 文化財アクションプランの基本的な考え方

第2章 文化財の保存・活用の課題と方針

ここでは、第1章「基本的な考え方」を踏まえ、文化財の調査研究、保存、活用別に対応すべき課題と方針を重点的かつ総合的な視点で設定します。

文化財の調査研究

1.調査研究

- ・本市では、平成23(2011)年10月の鷹島1号沈没船の発見をはじめ、鷹島海底遺跡の調査研究成果が認められ、平成24(2012)年3月には鷹島神崎遺跡が国指定史跡に指定されました。平成27(2015)年7月には鷹島2号沈没船が見つかり、その後、令和4(2022)年10月には平成25(2013)年の調査で発見した一石型木製いかりの引き揚げを行っています。鷹島海底遺跡に関する調査研究がその後の保存・活用に結びついています。今後は更なる発掘や調査結果の整理分析の進展が求められます。
- ・本土、鷹島、福島に囲まれた海域については、平成17(2005)年から平成27(2015)年まで、伊万里湾海底探査を実施し、海底地形や地質の調査を行っています。鷹島海底遺跡以外にも貴重な水中遺跡が存在する可能性があります。
- ・市内における遺跡の存在は海だけではなく、陸も多くの埋蔵文化財包蔵地が存在します。また、その多くは手付かずのまま、今に伝えられています。
- ・本市では、本計画の作成にあたり、市全域を対象として、文化財の総合的把握を実施し、文化財データベース(試行版)を作成しました。把握した中には、詳細な調査が未実施の文化財もあります。
- ・地域の人々が語り継ぐ、歴史文化もまた、本市にとって欠かせない文化財情報です。地域にとって忘れられない伝承・行事等が人々の記憶の中に受け継がれています。

(1)課題

- ①鷹島海底遺跡における継続的な文化財発掘調査が必要です。
- ②水中遺跡の把握・周知が必要です。
- ③埋蔵文化財の保護のため、法に則った発掘手続きを促す必要があります。
- ④総合的把握調査で多くの情報が寄せられた「風俗慣習、民俗芸能」や地域で大切にされている「民俗資料」、「信仰の場」等の分野において詳細調査ができていません。
- ⑤歴史文化を知る人材の高齢化が進んでいます。

(2)方針

海との深い関わりの中で育まれてきた松浦固有の歴史文化を深掘りする調査研究の推進を目指します。

- ①鷹島海底遺跡の価値を高めていく調査研究に取り組みます。
- ②水中遺跡の把握・周知に取り組みます。
- ③開発事業に合わせて発掘調査を進めます。
- ④「風俗慣習、民俗芸能」、「民俗資料」、「信仰の場」など地域の関心が高い分野において市指定に向けた調査研究に取り組みます。
- ⑤地域住民に語り継がれる歴史文化の情報を収集するための調査に取り組みます。

文化財の保存

2.保存修復

- ・市内に所在する指定・登録文化財は全部で69件で、そのうち「ばしょ」や「もの」の文化財(有形文化財、有形の民俗文化財、記念物)が59件あります。
- ・国指定史跡である鷹島神崎遺跡については、平成26(2014)年に『国指定史跡鷹島神崎遺跡保存管理計画書』を策定し、鷹島海底遺跡出土遺物を含め、その保存管理に取り組んできました。今後も引き続き遺跡の保存管理が必要です。
- ・遺物の保存処理は、埋蔵文化財センター保存処理施設において行っています。今後も直営で保存処理に取り組んでいくためには、老朽化に伴う設備の更新や施設の修繕に取り組まなければなりません。また、保存処理後の保管も見据えた将来的な施設規模の検討も行う必要があります。
- ・国指定史跡鷹島神崎遺跡以外の個々の文化財については、その保存・活用の考え方等をまとめた基本的な計画がまだ策定されていません。
- ・これまでの調査によって、市内には指定・登録文化財以外にも、本市の歴史文化を語る上で欠かせない文化財が数多く存在することが明らかとなっています。しかし、ばしょやものの文化財の中には、日々の保存管理や修復等が十分ではなく、経年の劣化が目立つものも多く存在します。
- ・浅谷七郎神社社殿等、自然災害により被害を受けた文化財に対しては、保存修復に取り組んでいます。

(1)課題

- ①国指定史跡鷹島神崎遺跡保存管理計画書の見直し時期を迎えています。
- ②鷹島海底遺跡出土遺物の劣化を防ぐため、適切な保存・保管が求められています。
- ③継続して保存作業に取り組むため、保存・保管施設の維持管理が求められています。
- ④個々の文化財について、保存・活用の方針が定められていません。
- ⑤劣化が目立つようになった文化財が数多く存在します。
- ⑥文化財を継承していくには、保存修復が必要です。

(2)方針

海とつながる松浦の歴史文化を物語る「ばしょ」・「もの」の文化財の中から緊急性の高いものを見極め、保存修復していくことを目指します。

- ①国指定史跡鷹島神崎遺跡保存管理計画書を見直します。
- ②鷹島海底遺跡出土遺物の保存・保管に取り組みます。
- ③保存作業を可能とする環境整備に取り組みます。
- ④個々の文化財に関する保存活用計画の作成を検討します。
- ⑤文化財の劣化状況・保管状況等の確認に取り組みます。
- ⑥次世代に守り伝えていくため保存修復を支援します。

3.継承支援

- ・市内に所在する指定・登録文化財は全部で69件で、そのうち「いとなみ」の文化財（無形の民俗文化財）が10件となっています。
- ・市内には、指定・登録される文化財以外にも、市民の伝統的な暮らしぶりを語り継ぐ、または、市民の郷土に対する愛着を育むうえで欠かせないいとなみの文化財が数多く継承されていることがこれまでの調査で明らかとなっており、松浦党や蒙古襲来に由来するものなど海との関連が深い文化財も受け継がれています。
- ・これらの中には、少子高齢化、さらには新型コロナウイルス感染症拡大により、失われることが危惧される無形の民俗文化財等も存在します。
- ・本市では小学校区単位での協働のまちづくりを推進しており、令和5(2023)年4月以降、まちづくり運営協議会の設置や組織化に向けた協議が進められています。まちづくり運営協議会が個人に代わり伝統的な活動を引き継ぐ事例もあります。
- ・一方で自治会によっては、人口減少等により、無形の民俗文化財等の担い手が減少しており、継承が途絶える可能性が高まっています。

(1)課題

- ①海とつながる松浦の歴史文化を物語る無形の民俗文化財等がまだ地域の中に眠っている可能性があります。
- ②市民生活の中で継承される無形の民俗文化財等を守り、伝えていくことが必要です。
- ③少子化や高齢化、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響で文化財の継承が困難になっています。

(2)方針

海とつながる松浦の歴史文化を物語る「いとなみ」の文化財を継承する市民団体を支え、継承していくことを目指します。

- ①海との関連が深い松浦党や蒙古襲来等に由来する無形の民俗文化財等を掘り起こし、継承を支援します。
- ②文化財の継承に取り組む市民や市民団体の活動を下支えしていきます。
- ③継承が危ぶまれる文化財の記録・保存に取り組みます。

4.防災・防犯

- ・文化財建造物や記念物、文化財保管施設等の防災に関しては、台風等の自然災害による被害がないか、その都度確認が必要です。一方で、人為的災害による被災が全国的な報道で取り上げられる例も増えており、人々の関心も高まっています。県内では、平成24(2012)年10月に長崎県対馬市で発生した文化財盗難事件を受けて、人為的な防犯の必要性についても関心が高まっています。
- ・『長崎県文化財保存活用大綱』や『松浦市地域防災計画』にも文化財の防災・防犯に関する取り組み方針等が定められており、それらに沿った対応が必要です。
- ・埋蔵文化財センターでは、文化財防火デー(1月26日)にあわせて、防火訓練を毎年実施し、文化財の防災に努めています。訓練の様子などを周知していますが、所有者等による自主的な防災訓練等の実施まで広がってはいません。
- ・県では、盗難や放火、災害などから文化財を保護する体制づくりを推奨し、本市でも平成25(2013)年から「文化財保護ネットワーク」の構築に取り組んでいます。
- ・本市では、文化財保護ネットワークを母体とした具体的な取り組みとして、国指定史跡鷹島神崎遺跡で、毎年3月末に、海岸からの防犯パトロールを実施しています。

(1)課題

- ①文化財保管施設の台風・大雨・地震等による被災が懸念されます。
- ②防災の観点から文化財建造物の点検が必要です。
- ③所有者・保存団体に対する防災対策の普及啓発が必要です。
- ④「松浦市地域防災計画」に基づき所有者と市が文化財の被災後の対応策を共有しておくことが必要です。
- ⑤被災時には、迅速な被害状況確認と対応策の検討が求められます。
- ⑥美術工芸品等の所有者に対する防犯意識の普及啓発が必要です。

(2)方針

海とつながる松浦の歴史文化を守るため、文化庁が定めた『防火対策ガイドライン』等を踏まえ、当該文化財の所有者とともに防災・防犯対策の充実を目指します。

- ①鷹島海底遺跡出土遺物を中心に保管展示する埋蔵文化財センターの防災対策について『国宝・重要文化財(美術工芸品)を保管する博物館等の防火対策ガイドライン』等を参考に取り組みます。
- ②文化財建造物の点検を行い、『国宝・重要文化財(美術工芸品)を保管する博物館等の防火対策ガイドライン』等を参考とし、所有者による防災対策の強化を支援します。
- ③所有者・保存団体の防災対策への意識向上に取り組みます。
- ④文化財の防災対策及び被災を想定した対策を検討します。
- ⑤文化財防災センター等と連携した迅速な被害状況確認・復旧支援に取り組みます。
- ⑥文化財保護ネットワーク等と連携し、美術工芸品等の所有者を中心として防犯意識の向上に向けた働きかけを行います。

5. 公開発信

- ・本市は、松浦党や蒙古襲来に関する文化財を中心に、文化財の公開や、様々な媒体を用いた情報発信に取り組んでいます。
- ・海には、蒙古襲来に関する文化財が残されています。水中遺跡から発掘した遺物は、鷹島にある松浦市立埋蔵文化財センターで展示公開しています。収蔵している文化財の中には、公開方法等が決っていないものも存在します。
- ・水中にある埋蔵文化財を調査する水中考古学に関する取組や、水中遺跡の価値については、まだ十分に認知されていません。今後、水中遺跡に関する調査研究を継続するためには、取組を周知し、その必要性を知ってもらう必要があります。
- ・市内には、梶谷城跡、松浦家供養塔、今福松浦家の古文書など、松浦党にゆかりのある文化財が残されており、解説板や案内板の設置に努めています。
- ・上記に加えて、本市は、歴史文化を活かしたイベント等の開催にも取り組んできました。令和2(2020)年11月には元寇サミットを開催し、令和4(2022)年度と令和5(2023)年度には元寇スタンプラリーを実施しました。
- ・一方、令和3(2021)年に実施した歴史文化に関するアンケート調査では、回答が1割に留まり、歴史文化に関心が高い人は多くない状況と考えられます。
- ・歴史文化に関する調査成果は報告書としてとりまとめています。今後も調査成果や歴史文化に関する活動を広くわかりやすく発信するため、インターネットを活用するなど市域に留まらない情報発信の工夫が求められます。
- ・官民協働による公開発信にも取り組んでいます。例年10月、元軍の襲来から郷土を守った松浦党(松浦水軍)をたたえる「松浦水軍まつり」が実行委員と市との共催で開催され、多くの人で賑わいます。また、市内事業者においては、歴史文化を活かした土産物や菓子等の開発や販売も行われています。今後も話題性のある取組の継続が求められています。

(1) 課題

- ①文化財の公開場所が限定的で、身近なものに感じられない状況があります。
- ②保存処理後の鷹島海底遺跡出土遺物の公開が進んでいません。
- ③水中考古学や水中遺跡に関する取組が十分に知られていません。
- ④地域の歴史文化に関する情報発信が十分ではありません。
- ⑤地域の歴史文化に対して関心を寄せる人々の広がりが十分ではありません。

(2) 方針

海と松浦との歴史的な関わりの深さを広く市内外に伝える文化財の公開や歴史文化の情報発信を目指します。

- ①松浦党や蒙古襲来などに関連する文化財の公開の場を増やします。
- ②鷹島海底遺跡出土遺物を公開できる環境を整えます。
- ③水中考古学・水中遺跡の取組を公開します。
- ④地域の歴史文化に関する情報発信に取り組みます。
- ⑤地域の歴史文化への興味を引き出すきっかけづくりに取り組みます。

6.学校教育・生涯学習

- ・地域の歴史文化に関わる学習を学校教育において取り入れています。その中心は水中遺跡に関するものが多く、松浦党やその他の歴史文化をテーマにした取組は多くはありません。
- ・小中学生に対しては、埋蔵文化財センターの体験学習や出前講座、副読本等の作成と配布、デジタル端末を活用した教育プログラムを導入しています。
- ・鷹島小学校では、授業の一環である正課クラブで「水中考古学クラブ」を実施しています。
- ・市内の小学4年生から中学3年生までを対象として、鷹島神崎遺跡の周知状況等を把握するアンケートを行った実績もあります。鷹島神崎遺跡の認知度は5割程度となっています。
- ・高校生に対しては、市内唯一の高校である長崎県立松浦高等学校と連携し、「まつナビ・プロジェクト(高校生の地域を愛し大切に作る姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発)」を令和2(2020)年度から実施しています。地域の歴史や環境をテーマとしたカリキュラムが開発され、推進されています。
- ・図書館に多くの文献資料を集め、歴史への興味がうすい人でも気軽に手に取れる環境を整えています。
- ・公民館では、料理講座、老人会クラブを対象にした高齢者学級、健康づくり講座、夏休みに活動する地域子ども教室など幅広い講座を開催しています。過去には、これらの講座に地域の歴史文化に関する内容を取り入れたこともあり、今後も参加者の意向を踏まえながら、歴史文化の学習機会として公民館講座との連携を検討する必要があります。また、連携にあたっては、講師を担う人材育成も必要となり、官民協働による歴史文化に関する学習機会の確保も求められます。
- ・生涯学習講座(まつうら出前講座)では、歴史文化を学ぶ講座も設けられており、行政が講師を担っています。学校が地域の歴史文化について学ぶ場合も、行政から講師を派遣しています。講師の人数に限りがあるため、今後、地域の歴史文化に詳しい人材に協力を求めるなど学校教育・生涯学習に関わる人材を増やし、歴史文化に係る学びを広げていくことが必要です。

(1)課題

- ①特徴的な歴史文化である松浦党に関する学びが十分とは言えません。
- ②好奇心を持って水中遺跡を学ぶことができる学習機会を拡充する必要があります。
- ③郷土愛を育むため、身近な歴史文化の価値を見直していく必要があります。
- ④地域の歴史文化をテーマとした学校教育・生涯学習に関わる人材が不足しています。

(2)方針

海と松浦との歴史的な関わりの深さを市民を中心に伝える学校教育・生涯学習の推進を目指します。

- ①海との関りが深い松浦党に関する学習機会の充実を図ります。
- ②国史跡鷹島神崎遺跡や蒙古襲来など地域の特徴的な歴史文化の学びを更に推進します。
- ③郷土愛を育む歴史文化を活かした学習機会を設けます。
- ④地域の歴史文化の語り手、継承者の育成に取り組みます。

7.観光振興

- ・本市の観光振興を考えると、歴史文化や食、体験など幅広い分野の連携が必要となっています。
- ・鷹島地区では、蒙古襲来に関連する歴史文化を活かした食と歴史の観光コンテンツの企画開発を目指し、ガイドの育成や市民向けモニターツアー実施の取り組みが始まっています。これまで活かされていなかった地域の歴史文化を観光振興につなげていく試みです。
- ・(一社)まつうら党交流公社により、「松浦党の里ほんなもん体験」と称して、松浦ならではの漁業や農林業、そして食等を体験する民家ステイ体験(民泊)、体験型修学旅行の受け入れに取り組まれてきました。一方、体験型観光に携わる担い手の減少が懸念されます。
- ・近年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、市内の観光業も厳しい状況が続いてきましたが、少しずつ回復の傾向が見られるようになっていきます。

(1)課題

- ①地域の歴史文化の観光資源としてのポテンシャルが十分に生かしきれていません。
- ②地域の歴史文化に詳しい観光ガイド等を担える人材が減少しています。
- ③高齢化により体験型観光に携わる人材が減少しています。
- ④コロナ禍を経て担い手が減少するなど体験型観光が低迷しています。

(2)方針

海との深い関わりの中で育まれてきた松浦固有の歴史文化や文化財を活かした観光振興の推進を目指します。

- ①地域の歴史文化を活かした観光プログラムの充実を支援します。
- ②地域の歴史文化を語ることができる観光ガイド等の育成に取り組めます。
- ③体験型観光事業の継承を支援します。
- ④体験型観光の活性化に向けた歴史観光のプログラム化と担い手確保を検討します。

8.地域まちづくり

- ・本計画の計画期間中に、本市の最上位計画である『松浦市総合計画』（平成31(2019)年策定）に加えて、『第2期松浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和3(2021)年改訂）』等が見直し時期を迎えます。
- ・これら上位計画・関連計画等の見直しにあたっては、地域の歴史文化をまちづくりに活かすことについて、多くの人々の関心が高まっています。
- ・本市では小学校区単位でのまちづくり運営協議会の設置や組織化に向けた協議が進む中、今後は、地域の歴史文化を活かしたまちづくりの担い手として、自治会だけでなく、まちづくり運営協議会の関わりも期待されます。
- ・地域の歴史文化、景観などを活動テーマとする市民団体もまちづくりの担い手です。市民が歴史文化を身近に感じるには各団体と連携してまちづくりに取り組むことが大切です。
- ・松浦党や蒙古襲来に特徴づけられる地域の歴史文化は、松浦市域だけで完結するものではありません。松浦党は近隣地域まで活動範囲を広げており、蒙古襲来では九州以外の武士の奮闘もありました。本市では、共通する歴史的背景を持つ自治体と連携したまちづくりにも着目しています。
- ・令和3(2021)年には公民館講座として史跡を巡るウォーキングイベントを開催し、参加者からはふるさとを懐かしむ体験ができたという好評を得ています。また、海や棚田といった景観のあるルートに健康づくりのためのウォーキングコースを設定しており、一部では、コース上の見どころをコースマップで紹介しています。ウォーキングイベントは幅広い年代が気軽に参加できる活動であり、景観や史跡に親しむ機会ではありますが、参加者が固定化するなど、活動の広がりが停滞しています。

（１）課題

- ①上位関連計画等の見直しにあたって、地域の歴史文化を活かすという視点が必要です。
- ②市民団体等とともに松浦固有の歴史文化を地域のまちづくりに活かすことが求められます。
- ③地域の歴史文化を活かした広域的なまちづくりを検討する必要があります。
- ④景観や遺跡などを活かして、地域の歴史文化を身近に感じられるまちづくり活動を検討する必要があります。

（２）方針

海との深い関わりの中で育まれてきた松浦固有の歴史文化や文化財を活かした地域まちづくりの推進を目指します。

- ①上位関連計画等の見直しにあたって、地域の歴史文化に関する取組を提案します。
- ②松浦固有の歴史文化を活かした個性ある地域まちづくりを支援します。
- ③地域の歴史文化を活かし、広域的なまちづくりの枠組みを創造します。
- ④地域の歴史的な景観や遺跡などを活かしたイベント実施を支援します。